

学修概要

口腔保健において保健指導および予防処置等を行うにあたり，歯科衛生士として必要な基礎事項を学ぶ。特に第1学年では，う蝕と歯周病を中心とした口腔疾患の予防法の概要を理解し，口腔領域の健康づくりの基礎的な知識を習得する。

- 教科書：口腔衛生学（学建書院）第3版
- 参考書：必要に応じて講義内にて指示する。
- 授業時間：水曜日 13：00～13：50
14：00～14：50
- オフィスアワー：中井久美子 月～木曜日 17：00～18：00 (nakai.kumiko10@nihon-u.ac.jp)
尾崎 愛美 月～水曜日 17：00～18：00 (ozaki.manami@nihon-u.ac.jp)
本橋 正史 授業終了後に質問を受け付ける。
- 授業の方法：スライドを用いた講義を主とする。
- 準備学習（予習・復習）
準備学習時間：予習を十分に行い，当日の学修到達目標を理解しておくこと。
- 成績評価：平常試験（40%），定期試験（60%）で評価する。
平常試験は3回行い，その平均を40%とする。
- 注意事項：教科書を持参すること。なお，平常試験を3回実施する。
- 実務経験：中井 久美子：歯科医師として歯科の一般治療と予防処置ならびに学校歯科検診に従事した経験から，歯科疾患の第1次，第2次，第3次予防の実際を説明する。
尾崎 愛美：歯科医師として歯科の一般治療と予防処置ならびに学校歯科検診に従事した経験から，歯科疾患の第1次，第2次，第3次予防の実際を説明する。
本橋 正史：歯科医師として歯科の一般治療と予防処置ならびに学校歯科検診に従事した経験から，歯科疾患の第1次，第2次，第3次予防の実際を説明する。

授業日・担当者	講義項目	学修目的・到達目標
第1回 10月2日 中井 久美子	1. 口腔衛生の意義 2. 口腔と健康 3. 歯・口の発育変化 (教) pp. 1-13	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域保健における口腔衛生の位置付けを知る。 ・ 疾病予防の段階と歯科衛生士の役割を理解する。 ・ 咀嚼，味覚，発音などの口腔の各機能について理解する。 ・ 加齢による口腔機能の変化について理解する。

授業日・担当者	講義項目	学修目的・到達目標
第2回 10月9日 本橋 正史	2. 口腔環境- 1) 唾液の成分 2) 唾液の作用 3) ペリクル 4) 口腔微生物 (教) pp. 13-17	<ul style="list-style-type: none"> • 歯の健康と関連する環境要因のうち、唾液の口腔衛生学的な意義や役割について学ぶ。 • 歯の健康と関連が深い口腔微生物について概要を学ぶ。
第3回 10月16日 本橋 正史	3. 歯・口腔の不潔 1) プラーク 2) 歯石 3) 着色性沈着物 4) 舌苔 (教) pp. 17-26	<ul style="list-style-type: none"> • 口腔の付着物についての基礎的な知識を得る。 • プラークの形成と成熟について学ぶ。 • 歯石形成とその為害作用について学ぶ。 • 歯垢，歯石以外の口腔の不潔物について学ぶ。
第4回 10月23日 尾崎 愛美	4. 口腔清掃-1 1) 口腔清掃の意義 2) 口腔清掃の分類 3) 口腔清掃用具 4) 歯磨剤 5) ブラッシング法 (教) pp. 27-40	<ul style="list-style-type: none"> • 口腔清掃の意義について理解する。 • 口腔清掃法の基本的な分類と概念について学ぶ。 • 歯ブラシの構造と，その他の補助的清掃器具について学ぶ。 • 歯磨剤の基本的な事項について理解する。 • 各種ブラッシング方法および補助刷掃法の意義や基本的な方法について理解する。
第5回 10月30日 尾崎 愛美	5. 復習および平常試験	<ul style="list-style-type: none"> • 第1回～第4回の講義の復習 • および確認のための小テストを行う。
第6回 11月6日 尾崎 愛美	6. う蝕の予防-1 1) う蝕の基礎知識 2) う蝕発症のメカニズム 3) 初期う蝕の再石灰化 (教) pp. 41-46	<ul style="list-style-type: none"> • 日本でのう蝕の有病状況について学ぶ。 • う蝕の進行段階における特性について理解する。 • う蝕の発生要因を学び，う蝕発生機序との関連性を理解する。 • 初期う蝕において認められる再石灰化現象について理解する。

授業日・担当者	講義項目	学修目的・到達目標
第7回 11月13日 尾崎 愛美	7. う蝕の予防-2 1) う蝕活動性試験 2) エナメル質齲蝕と根面齲蝕 3) う蝕の予防法 (教) pp. 46-51	<ul style="list-style-type: none"> • う蝕のなりやすさ，進みやすさを，う蝕の発生要因の視点から理解する。 • 指標（リスク試験）としてのう蝕活動性試験について理解する。エナメル質齲蝕と根面齲蝕の違いについて理解する。 • う蝕が多要因性疾患であることを踏まえて，各発生要因からう蝕予防方法を考える。
第8回 11月20日 中井 久美子	8. う蝕の予防-3 1) フッ素の知識 2) フッ素の毒性 3) フッ化物の作用機序 4) 局所・全身的フッ化物応用法 5) 齲蝕予防効果 (教) pp. 52-68	<ul style="list-style-type: none"> • 日常生活の中で存在するフッ素について学ぶ。 • フッ化物を応用するにあたり必要な，フッ素の毒性について理局的フッ化物の応用法の種類とその作用機序について学ぶ。 • う蝕の特異的予防法として，世界中で一番応用されているフッ素とう蝕の関係について学ぶ。解する。
第9回 11月27日 尾崎 愛美	9. 平常試験および解説	<ul style="list-style-type: none"> • 第6回～第8回の確認のための小テストを行う。
第10回 12月4日 本橋 正史	10. 歯周疾患の予防-1 1) 基礎知識と疫学 2) 分類 (教) pp. 69-74	<ul style="list-style-type: none"> • 歯周疾患の有病状況を中心に疫学的な知見について知る。 • 歯周疾患の一般的な分類方法を理解し，歯肉病変，歯周炎などの症状について知る。
第11回 12月11日 本橋 正史	11. 歯周疾患の予防-2 1) 発生のメカニズム 2) 発生要因 3) 進行と転帰 (教) pp. 74-79	<ul style="list-style-type: none"> • 歯周疾患の発生における歯周病原性細菌の特徴について知る。 • 歯周疾患の発生要因とそれらの影響の仕方について理解する。 • 歯肉炎と歯周炎の進行と転帰の自然史について知る。
第12回 12月18日 本橋 正史	12. 歯周疾患の予防-3 1) 歯周疾患と全身疾患 2) 予防の段階と予防方法	<ul style="list-style-type: none"> • 歯周疾患と全身疾患の関係について理解する。 • 歯周疾患の進行に応じた3つの予防の段階について理解し，各段階における具体的な対策について知る。

授業日・担当者	講義項目	学修目的・到達目標
第13回 1月8日 本橋 正史	13. 平常試験および解説	<ul style="list-style-type: none"> • 第10回～第12回の確認のための小テストを行う。
第14回 1月15日 中井 久美子	14. 口臭の予防 15. 不正咬合 16. 歯科疾患の疫学 17. 齲蝕に関する指標 (教) pp. 83-99	<ul style="list-style-type: none"> • 口臭, 不正咬合の基礎知識を理解する。 • 疫学の目的, 方法を理解し歯科疾患に対する疫学の重要性を知る。
第15回 1月22日 尾崎 愛美	18. 歯周疾患に関する指標 19. フッ素症の指標 20. 不正咬合の指標 (教) pp. 99-115	<ul style="list-style-type: none"> • 歯肉炎や歯周炎の指標について理解する。 • フッ素症, 不正咬合の指標を理解する。